

財団法人京都市環境事業協会 平成 25 年度事業報告書

当協会は、平成 13 年度に本格的に事業を開始して以来、今日まで国際文化観光都市である京都の美化推進の一翼を担ってきた。

平成 25 年度は街頭ごみ容器のごみ収集及び公衆便所清掃業務を引き続き受託し、365 日、1 日も休むことなく「世界一美しいまち・京都」の推進に取り組み、平成 26 年 3 月末日をもって 13 年間にわたる業務を円滑に終了することができた。

また、京都市環境保全活動センター（以下「センター」という。）指定管理業務は 3 期目を迎えた。平成 25 年度は、作業部会の新設（展示部会）をはじめ、中学版環境副読本のリニューアル、ボランティア研修の体系化、ビオトープ改修、プロモーションの強化、機関紙のリニューアル等に重点的に取り組んだ。

さらに、これまでの成果を基に、新たに京都市が実施する市内全学区を対象とした「エコ学区事業」サポートセンター業務を受託することができた。この業務を通して多くの地域コミュニティとの接点を得られることとなり、これまで指定管理業務で培ってきた様々なリソースを各地域において活用するとともに、今後の地域における取組を見通すうえでも貴重な機会となった。

このほか、京都市の「くらしの匠」事業、JICA 国別研修「中国・環境教育」についても、これまでに引き続き受託することができた。また、新たに自主事業として、林野庁の交付金を活用した森林環境教育事業にも取り組んだ。

なお、公益法人制度改革に伴う公益財団法人への移行にあたっては、平成 25 年 8 月 23 日に京都府に対して移行認定申請を行った。その後、同年 11 月 20 日付けで移行認定基準に適合すると認めるとの答申がなされ、平成 26 年 3 月 20 日付けで京都府知事より公益財団法人への移行認定を受けた。これにより、平成 26 年 4 月 1 日付け公益財団法人への移行の準備を整えることができた。

I 財団法人京都市環境事業協会 法人概要

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

循環型社会の実現のため、市民・事業者において環境に配慮した自主的な行動が実践されるよう、環境意識の普及啓発を図るとともに、廃棄物の減量化及び再資源化の実践面での支援を行い、併せて、廃棄物の収集、運搬、処理、処分等の業務を行うことにより、京都市の廃棄物処理行政の円滑かつ効率的な推進を支援し、市民生活の快適な環境を確保することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

平成 13 年 2 月 14 日

イ 出捐金

金 50,000,000 円（全額京都市出捐）

ウ 実施事業

(ア) 環境意識の普及、啓発に関する事業

(イ) 京都市環境保全活動センターの管理運営に関する事業

(ウ) 不法投棄の監視巡回パトロールや市民・事業者による美化活動の支援等「まちの美化」に関する事業

(エ) 京都市から受託する廃棄物の収集、運搬、処理、処分及び再資源化に関する事業

(オ) 京都市の環境関連施設の管理運営に関する事業

(カ) その他環境整備の推進に関する事業

2 役員等の状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

(1) 役員等の数

理事長 1 人 副理事長 1 人
 理事 4 人 監事 2 人 評議員 9 人

(2) 役員等名簿

ア 役員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
理事長	笠松 恒洋	財団法人京都市環境事業協会理事長
副理事長	西村 文治	京都市環境政策局長
理事	浅岡 美恵	弁護士
〃	内藤 正明	京都大学名誉教授
〃	西脇 悦子	京都市地域女性連合会会長
〃	羽室 武	京都地方自治総合研究所理事長
監事	野村 克章	税理士
〃	今井 邦光	京都市環境政策局環境企画部環境総務課長

イ 評議員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
評議員	板倉 豊	京都精華大学人文学部環境社会学科教授
〃	郡瀧 孝	同志社大学経済学部教授
〃	高橋 直樹	全日本自治団体労働組合京都府本部副委員長
〃	中島 和子	京都市生活学校連絡会会長
〃	山内 寛	山科保健協議会連合会会長
〃	榎木 稔	京都市掃除に学ぶ便きょう会会長
〃	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
〃	山田 哲士	京都市環境政策局環境企画部長
〃	川瀬 武	京都市環境政策局循環型社会推進部担当部長

3 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 1 回	平成 25 年 5 月 27 日	議第 1 号 副理事長の選定	承認
		議第 2 号 評議員退任の承認	承認
		議第 3 号 平成 24 年度事業報告書	承認
		議第 4 号 平成 24 年度収支決算報告書	承認
		議第 5 号 公益財団法人移行後の評議員候補者の推薦	承認
		議第 6 号 公益財団法人移行後の代表理事の選定	承認
第 2 回	平成 26 年 3 月 24 日	議第 1 号 常勤役員（理事長）の報酬額	承認
		議第 2 号 諸規則の改正	承認
		議第 3 号 事務局職員（重要な職員）の任命	承認

(2) 評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 1 回	平成 25 年 5 月 27 日	議第 1 号 役員を選任	承認
		議第 2 号 平成 24 年度事業報告書	承認
		議第 3 号 平成 24 年度収支決算報告書	承認
		議第 4 号 公益財団法人移行後の最初の役員を選任	承認
第 2 回	平成 26 年 3 月 24 日	議第 1 号 諸規則の改正	承認

(3) 理事会及び評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
臨 時	平成 25 年 8 月 1 日	議第 1 号 平成 25 年度収支予算の補正	承認
		議第 2 号 定款の変更の案	承認
		議第 3 号 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する 規程の制定	承認
		議第 4 号 平成 26 年度事業計画書	承認
		議第 5 号 平成 26 年度予算書	承認
		議第 6 号 公益財団法人への移行認定申請書	承認
		議第 7 号 移行認定書付帯書類の作成及び移行登記完 了までの諸雑務についての理事長一任	承認

4 職員数の推移（平成26年3月31日現在）

（単位：人）

年 度 末	事 業 協 会											京 エ コ ロ ジ ー セ ン タ ー	合 計	
	理 事 長	参 与	事 務 局				十 条 等 業 務		北 部 R C 業 務					小 計
			事 務 局 長	課 長	作 業 長	係 員 等	一 般 職 員	嘱 託 職 員	一 般 職 員	嘱 託 職 員	育 成 職 員			
13	1		1	3		3	57	3				68		68
14	1	1	1	3		4	90	18				118	19	137
15	1	1	1	2	2	4	107	18				136	21	157
16	1	1	1	2	3	4	124	20				156	19	175
17	1	1	1	2	3	4	121	23				156	20	176
18	1	1	1	2	4	4	97	70	9	25	11	225	19	244
19	1		1	3	4	4	80	72	11	22	14	212	21	233
20	1		1	3	4	4	91	63	12	26	15	220	18	238
21	1		1	3	3	6	87	77	9	26	15	228	16	244
22	1		1	3	2	5	77	56	8	30	15	198	16	214
23	1		1	3	2	4	57	74	5	30	14	191	19	210
24	1		1	3	2	4	43	74	5	30	16	179	19	198
25	1		1	1	2	3	19	41				68	21	89

II 平成 25 年度実施事業内容

1 環境意識の普及・啓発及び環境活動の実践に関する事業状況

京都市からの受託事業が、平成 22 年度から、順次、市の直営実施、又は民間会社への委託に変更となり、平成 24 年度末には、北部リサイクルセンター管理運營業務の受託を終了している。このような状況下で平成 25 年度に実施した事業内容について報告する。

(1) 「世界一美しいまち・京都」推進に関する事業

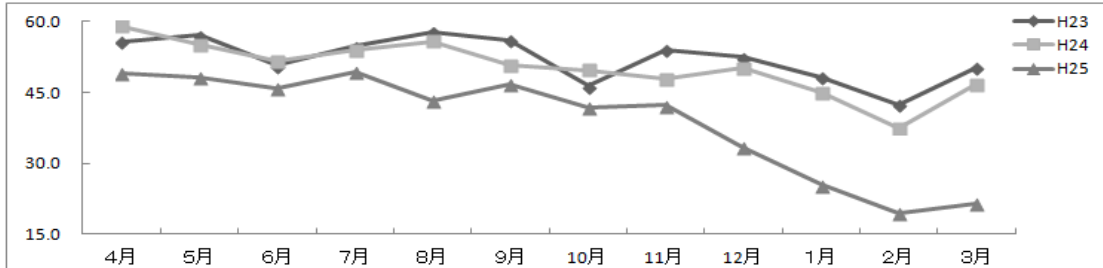
ア 街頭ごみ容器内のごみ回収作業

京都市が設置する市内すべての街頭ごみ容器内のごみ回収作業を行った。ただし、京都市方針による街頭ごみ容器の設置場所縮小により、収集量は徐々に減少した。(年度当初 549 箇所、年度末 364 箇所)

街頭ごみ容器収集量（普通ごみ）

(単位：t)

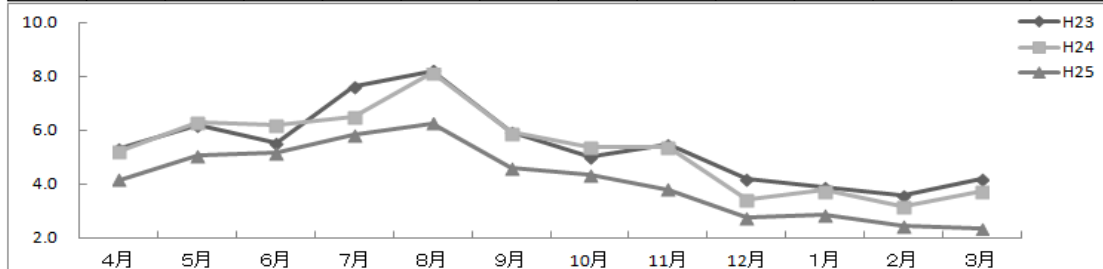
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H23	55.9	57.1	50.8	54.8	57.8	56.1	46.4	54.1	52.5	48.4	42.5	50.3	626.8
H24	59.1	55.2	51.7	54.1	55.9	50.9	49.8	48.0	50.2	45.0	37.5	46.7	604.1
H25	49.2	48.3	46.0	49.3	43.4	46.9	42.0	42.3	33.5	25.5	19.5	21.5	467.3



街頭ごみ容器収集量（資源ごみ）

(単位：t)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H23	5.3	6.2	5.5	7.6	8.2	5.9	5.0	5.5	4.2	3.9	3.6	4.2	65.0
H24	5.2	6.3	6.2	6.5	8.1	5.9	5.4	5.4	3.4	3.8	3.2	3.7	63.0
H25	4.2	5.0	5.2	5.8	6.3	4.6	4.3	3.8	2.7	2.9	2.4	2.4	49.5



イ 市民・事業者による美化活動の支援

市民や事業者が実施するボランティア清掃活動によって回収されたごみの回収作業を行った。

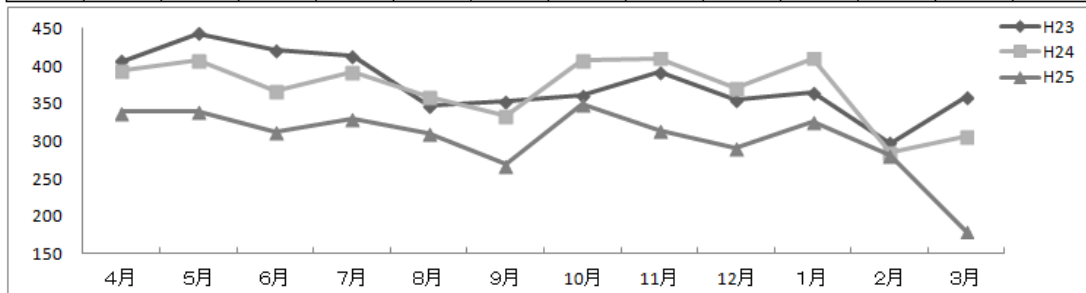
ウ 公衆便所の清掃，維持管理作業

京都市環境政策局所管の公衆便所（54箇所）の清掃及び維持管理作業を行った。

公衆便所巡視回数

（単位：回）

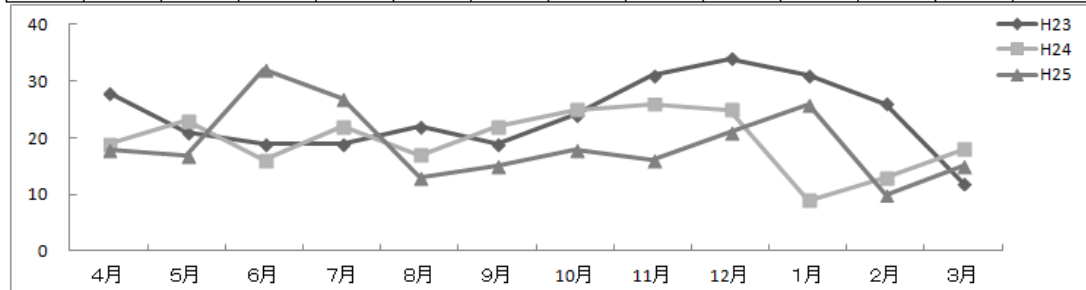
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H23	407	444	422	414	348	354	362	393	355	366	298	359	4,522
H24	394	409	368	393	359	335	409	411	371	411	285	307	4,452
H25	339	340	312	330	311	269	349	315	291	327	281	181	3,645



公衆便所緊急対応回数

（単位：回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H23	28	21	19	19	22	19	24	31	34	31	26	12	286
H24	19	23	16	22	17	22	25	26	25	9	13	18	235
H25	18	17	32	27	13	15	18	16	21	26	10	15	228



2 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）指定管理業務

(1) いろいろな主体が学び、育つステージの提供

ア プログラム開発

児童館から依頼を受け、毎月 16 日の「エコの日」に実施する専用のプログラムを、児童館内で自主的に継続されることを念頭に作成し、実施した。小学校の PTA からは、環境学習の依頼を受け、出前授業を行った。また、毎週日曜日にセンターで職員が実施するミニプログラム「ちきゅまるひろば」を継続実施し、センターの定番として定着してきた。さらに、環境ボランティアが「ちきゅまるひろば」を企画・実施することを目指した研修も行った。

イ 団体見学，エコ学習

団体見学では、京都市環境政策局循環企画課主催の「エコバスツアー」向けにアレンジしたエコクッキング編が好評であった。エコバスツアー全体では 23 件の利用があった。京都市青少年科学センターのセンター学習の一部であるエコ学習では、新たにセンターの展示を活かした「展示学習」がはじまり、多くの児童が来館した。また、展示学習の開始に伴い、環境ボランティア向けのプログラム研修を実施し、スタッフのスキルアップを図った。

ウ 環境副読本

毎年、小学 4 年生，5 年生，中学生向けの 3 種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布している。平成 25 年度は中学生向け環境副読本を、京都市教育委員会，学識者，環境 NGO 等と協力して全面改定し、総合的な学習の時間はもちろん、教科内でも活用しやすい内容にした。また、小学生向けには、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成した。

■ 環境副読本インタビュー動画ホームページ

<http://www.miyako-eco.jp/advice/>

エ 常設展示

展示リニューアルに向け、外部の有識者を交えた展示作業部会を立ち上げた。部会では、現在の環境教育の動向から、環境保全活動の拠点施設としての役割、その中での展示の方向性、リニューアルに向けた外部資金の活用等、様々な議論の中から、次年度に向けた論点の洗い出しを行った。また、環境ボランティア向けにセンターの展示に対する理解を深め、案内を円滑に行えるよう展示の基本情報を集約した「展示案内シート」の作成と活用のための研修を行った。

オ 企画展示・企画展関連イベント

公募型企画展では、周辺の河川に棲む淡水魚の紹介など、新たに企業や他施設との共同主催により実施した。また、例年共同で実施している企画展でも、環境カレンダー原画展など新しい企画を盛り込んで開催した。さらに、平成26年2月～3月に開催した「ゴミック『廃貴物』展」は、環境ボランティアのグループ活動である「展示部」が、企画から実施まで一貫して取り組んだものであり、また開催期間中にはギャラリーツアーも実施した。

期 間	タイトル（共催の相手等）
6月1日～7月28日	第10回エコ住宅素材展（関西自然住宅推進ネットワーク）
10月26日～11月24日	環境カレンダー原画展～エコネコと行く緑のほそみち～ （日本環境保護国際交流会）
11月2日～11月6日	京都まちとみどり写真コンクール入賞作品展 （京都府都市計画協会）
12月2日～	くらべてみよういろんな照明コーナー （立花エレクトック（株））
12月19日～12月25日	淀川・桂川・宇治川・木津川の魚たち（淀川資料館）
2月1日～3月31日	ゴミック『廃貴物』展

オ かえっこバザール

今年度は新たに、機械や電子部品に詳しいボランティアスタッフによるおもちゃの修理コーナーの常設化や、かえっこバザールの内容と関連させた展示室見学ツアーの開催など展示と連動させて実施した。期間や方法を改め、年間6回（延べ11日間）の開催としたことにより、合計

879 人の参加者があった。また昨年度に引き続き、ボランティアスタッフがセンター外で自主的に実施しているかえっこバザールへの支援（実施備品の貸出、実施に関するアドバイス）を行った。

開催日	内容の特徴	参加者数
5月19日(日)	紙芝居コーナーの設置	103人
6月9日(日)	企画展「エコ住宅素材展」イベントと連動	70人
8月12日(月) ～17日(土) 6日間開催	かえっこウィーク開催 12日「展示室内クイズ」 13日「展示室見学ツアー」 14日 夏休みイベントと連動、「おもちゃの分解コーナー」 15日「館内見学ツアー」実施 16日「館内見学ツアー」実施 17日 紙芝居コーナー、「館内見学ツアー」実施	448人
10月13日(日)	オークションコーナー、紙芝居コーナーの設置	56人
1月19日(日)	くじびきイベントの実施	95人
3月9日(日)	企画展「ゴミック『廃貴物』展」ギャラリーツアー	107人

カ エコメイト養成講座

本講座は、来館者とのコミュニケーションを図るために必要な知識、技術を習得することを目的としており、センターの環境ボランティアとして活動するために、受講を必須としている。講座には、ボランティア活動の基礎から、グループコミュニケーションワーク、環境問題の基礎、環境学習プログラムの基礎、企画、実践等の座学及び実習を含んでいる。今年度は11月～3月の間に計8回（10日間）開催した。（応募者18名、受講者16名、登録者12名）。

	期日	タイトル
第1回	11月24日(日)	オリエンテーション
第2回	12月1日(日)	ボランティア事始め
第3回	12月15日(日)	学習・活動グループ運営きほんのき
第4回	1月11日(土)	環境問題きほんのき
第5回	1月25日(土)	環境学習きほんのき

第6回	2月8日(土), 9日(日)	環境学習の場をつくり・まわすきほんのき
第7回	2月22日(土), 23日(日)	実践実習
	2月24日(月)~3月14日(金)	現場実習
第8回	3月15日(土)	これからのエコメイト活動に向けて&登録説明会

キ 環境ボランティア活動支援

センターの環境ボランティアは、展示の案内・解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて環境に配慮したくらしを来館者と一緒に考え、広める役割を担っている。そのような活動をより活発にするために、年間を通じてボランティア同士の交流を深め、活動へのエネルギーを高めるための機会や、それぞれの活動への不安や疑問を解消する機会を設けた。また、毎月のセンターでの活動情報や活動報告を掲載した「エコセン便り」を発行した。

プログラム研修	5月14日, 29日, 6月11日, 30日, 7月9日, 28日,
ボランティア全体会議	5月18日, 8月24日, 12月1日, 2月2日
年間支援の会	3月31日, 9月14日, 3月23日

ク ステップアップ研修

環境ボランティア「エコメイト」は3年間の任期修了後、地域での環境保全活動を広げる役割を期待されている。その上で、3年間の活動をより充実したものとなるよう企画し、月1回程度の頻度で研修を実施している。平成25年度は、体系的に学べるよう、3年間の研修カリキュラムを作成した。環境問題の知識を得るための研修や、お客様とのコミュニケーションの取り方、環境学習プログラムの企画実施の方法など、様々なテーマの研修を11回実施した。

ケ 環境教育リーダースタートアップ講座

これまで「環境教育リーダー養成講座」として行ってきた講座を、多くの人々が環境教育を実践できるようになるために、プログラムの企画、実践の基礎を重視することに目的を改め、講座の名称も「環境教育リーダースタートアップ講座」とした。講座は、全6回とし、基礎、事例（自

然体験，まちづくり，ライフスタイルの変革など)，企画，実践までのプロセスを体系立てて学べるよう毎回の講座をデザインし，現場ですぐに活かせる内容とした。

期日	タイトル
5月12日(日)	アイスブレイク、プログラム実践のヒントとコツ
5月26日(日)	自然の中での環境教育プログラム実践のヒントとコツ
6月8日(土)	まちづくりと結びつく環境教育プログラム実践のヒントとコツ
6月22日(土)	生活行動に結びつく環境教育プログラム実践のヒントとコツ
7月13日(土)	「伝える技術」の基本を身につける
7月27日(土), 26日(日)	環境教育の現場に立つ

コ 自然エネルギー学校 2013

地域や個人等で，自然エネルギー導入を実践する担い手を育てるため全5回の連続講座を実施した。自然エネルギー，市民共同発電，地域での自然エネルギー事業などの最新動向をそれぞれの専門分野から講師を呼び事例報告を行った。また，地域で市民共同発電所を実践することを視野にいれ，ノウハウを体系的に学ぶワークショップを毎回行った。他にも，実際に自然エネルギーを導入した事例の見学も盛り込み，より実践的な講座とした。

期日	タイトル
8月31日(土)	自然エネルギー普及の最新動向 ～地域・市民が進める自然エネルギー普及～
9月28日(土)	はじめよう！自然エネルギー事業 ～地域での様々な取り組み～
10月19日(土)	市民共同太陽光発電の最新動向 ～広がる、おひさま発電所～
11月9日(土)	自然エネルギー利用の事例を見に行こう
11月30日(土)	自然エネルギー事業へ向けた課題 ～資金の流れ、電力システムを知ろう～

サ 「京都発エコ・デザイン学」

(公財) 大学コンソーシアム京都による単位互換授業を龍谷大学の協力講座として、センターのコーディネートのもとに行った。全5回の集中講義を「京都発エコ・デザイン学」と題し、身近な環境問題を解決するための方策＝「デザイン」を考え、発表を行った。「デザイン」を考える上での参考として、講座では事業者、NPO、若者、学生、ボランティアによる環境活動の事例発表やディスカッションを行い、学生にとって環境に対する新たな視点が得られるよう取り組んだ。

期日	タイトル
9月3日(火)	地球のエコ・デザイン
9月4日(水)	生活のエコ・デザイン
9月5日(木)	働く人のエコ・デザイン、若者のエコ・デザイン
9月6日(金)	若者のエコ・デザイン、働く人のエコ・デザイン
9月7日(土)	わたしのエコ・デザイン

シ 京都教育大学総合演習

京都教育大学の学生を対象に、5日間の夏期集中講座「環境教育の実践」を企画・実施した。講座は、学校現場で環境教育の担い手となり得る教員志望の学生を対象に、環境学習プログラムの企画づくりやプログラムを実施する際の効果的なコミュニケーション、場づくり等について、座学、体験をまじえながら、体系的なものとなるようデザインした。最終日には公開演習として、受講生自らが企画した環境学習プログラムをセンターの来館者に対し実演し、結果について講評を行った。

期日	タイトル
8月12日(月)	オリエンテーション・環境教育講義
8月13日(火)	プログラムづくりの講義・ワーク
8月16日(金)	コミュニケーションの講義・ワーク
8月17日(土)	プログラムづくり・リハーサル
8月18日(日)	公開演習「教えて！エコ先生！」

ス インターシップ・職場体験受け入れ

インターンシップでは、10名の大学生を受け入れた。夏休み期間を中

心に、来館者対応やミニプログラム「ちきゅまるひろば」の実施、「京都発エコデザイン学」の受講生に対して館内案内等の業務を実践した。また、京都市教育委員会による「生き方探究・チャレンジ体験」の一環として、京都市立洛南中学校、深草中学校、藤森中学校、西京高校附属中学校の4校から12名の職場体験を受け入れ、ブログ更新や展示の作成・修復、イベント準備などの実務体験を行った。

セ エコセンクラブ

センター屋上の田んぼや畑を活用し、小学生とその家族を対象に、お米や野菜の栽培、収穫、エコクッキング、生ごみの堆肥化などの活動を通して「食の循環」を学ぶ活動を行った。1年間継続して活動することで、体験したことを日常の買い物や料理などで実践している参加者が生まれているほか、ボランティアスタッフとして関わる京エコサポーターがプログラムの実践や参加者との関わり方について学ぶ場としても機能している。

参加登録数	子ども 29 人，大人 26 人
-------	------------------

	期日	タイトル
第1回	4月27日(土)	オープニング・オリエンテーション
第2回	5月11日(土)	田植え・夏野菜の苗植え
第3回	5月25日(土)	緑のカーテンづくり
第4回	6月8日(土)	夏野菜のお世話
第5回	6月22日(土)	みみずコンポストのお世話
第6回	7月6日(土)	かかしづくり
第7回	7月20日・27日(土)	夏のエコクッキング
第8回	8月24日(土)	土づくり・冬野菜の種まき
第9回	9月7日(土)	種まき・冬野菜のお世話
第10回	9月21日(土)	稲刈り
第11回	10月5日(土)	緑のカーテン片付けと種とり
第12回	10月19日(土)	脱穀
第13回	11月2日(土)	田んぼのレンゲ蒔き・プランターの土づくり
第14回	11月16日(土)	もみすり
第15回	11月30日・12月7日(土)	冬のエコクッキング

第16回	12月21日(土)	旬の食べものゲーム
第17回	1月11日(土)	土づくり
第18回	1月25日(土)	絵巻づくり
第19回	2月8日(土)	絵巻づくり
第20回	2月22日(土)	発表会・クロージング
番外編	3月22日(土)	大岩山遠足

(2) いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携

ア 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

今年度は、新たな地域とのつながりも生まれ、地域女性連合会環境部会を対象にした通年学習会（全5回）をはじめ、1回完結型の学習会（計3回）、学区単位で開催されるお祭りへのブース出展（計5回）を実施した。プログラムの企画から準備、実施、ふりかえり、プログラム改善までを京エコサポーターとともにやり、経験が次の事業実施に繋がるよう取り組んだ。また、地域からのニーズに合わせたプログラムを提供するため、担当メンバーで意見を出し合った。

イ 環境保全活動助成

市民による環境保全活動が継続され、ステップアップしていくことを目的に、活動の段階、規模に合わせて3つのタイプ（上限100万円、10万円、5万円）の助成事業を行っている。平成25年度は3タイプあわせて10団体の事業を採択した。事業終了後の活動成果報告会では、各団体が抱える問題等を話し合える機会を設け、ノウハウの交換ができる活動支援の場としても機能させた。

また、採択団体以外の団体等も対象とした「助成金申請スキルアップ講座」も開催した。

平成25年度採択一覧：事業名（団体名）

【タイプA：上限100万円】
・地域から始めよう！「市民協働発電所」施設の立ち上げサポート（一般社団法人 市民エネルギー京都）
・買い物で世界を変える 京都からグリーンコンシューマー活動を次のステージに（特定非営利活動法人 環境市民）

【タイプB：上限10万円】
・鴨川生き物調査（特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都）
・「家庭の省エネアドバイザー養成研修会」 / 「家庭の省エネアドバイザースキルアップ研修会」（省エネ普及ネット・京都）
・京町家でエコな体験をしよう「京町家なう」（京町家なう）
・カーフリーダーの開催に向けた市民向けシンポジウムの開催（Slow “Mobility” Life Project）
・淀駅周辺地域の水環境改善活動（淀駅周辺地域の将来を考える会）
【タイプC：上限5万円】
・木工ひろば（牛平工務店）
・季節のネイチャーゲームのつどい（京都かも川ネイチャーゲームの会）
・ものことば「つたえる，つながる乳幼児の期のおもちゃづくり」全5回（父活Project）

(3) 持続可能な地域社会への提案，情報発信と交流

ア 広報・プロモーション

ソーシャルメディア（Facebook, twitter）を活用した情報発信とあわせてスマートフォンの普及に対応するため，スマートフォン向けWEBサイトを作成した。また，大型イベントを中心としたプレスリリースにも力を入れ，専門家のアドバイスを受けながら効果的な広報・情報発信の方法について検討した。平成25年度の新たな試みとしては，大型商業施設での館外PRイベントを企画・実施し，これまでセンターの存在を知らなかった層へのアプローチを行った。

京都経済記者クラブへのプレスリリース
3回（新聞社・テレビ局・ラジオ局他21社へ配信） イベント事前掲載1社，当日取材・事後掲載2社
WEBリリース
11月（ひとときフェスタ） 197媒体へ配信 30媒体に掲載
2月（未来フェスタ） 220媒体へ配信 45媒体に掲載

イ イベント情報紙「えこいべ」

主に親子を対象としたイベントを広報するため，A4半折りの紙媒体

「えこいべ」を毎月発行した。毎回約 3,600 部を印刷し、区役所、図書館、博物館、児童館等で配架している。また、小学校の夏休み期間に開催するイベントを特集した A3 半折りの紙媒体「えこいべ夏休み特大号」を作成し、近隣小学校をはじめ、地下鉄沿線の小学校や幼稚園、保育園に約 13,000 部、35 校に配布した。掲載したイベントのほとんどが定員に達し、大きな成果が得られた。

ウ 季刊誌「えこせん」の発行

平成 25 年度より機関誌「えこせん」を倍増の 8 ページ建てとし、季刊誌「えこせん」としてリニューアルした。隔月発行で年 6 回、各 3000 部(外部出展多忙期等、配付数が多い秋季のみ 4000 部)を発行している。また、ターゲットとなる読者層を明確化し、「京のくらしと人とエコ」をコンセプトに、季節ごとに親子で取り組める活動の紹介や、センターの魅力を伝える誌面づくりを行った。その結果、好評を得て、毎号在庫がほとんど残らない状況になっている。

●平成 25 年 6 月号 (5 月 20 日発行)	
特集 1	野菜提案企業 坂ノ途中 小野邦彦さん 「未来からの前借り、やめましょう。」
特集 2	親子でベランダ菜園にチャレンジ!
●同 8 月号 (7 月 20 日発行)	
特集 1	京扇子調進所 舞扇堂 水上隆仁さん 「柔らかな風を感じてほしい」
特集 2	エコセン的涼しい夏の過ごし方
●同 10 月号 (9 月 20 日発行)	
特集 1	針穴写真家 大場典子さん 「時間と風を記憶するために」
特集 2	親子の思い出写真で残そう 親子で作ろう手作りカメラ
●同 12 月号 (11 月 20 日発行)	
特集 1	妙心寺塔頭退蔵院 副住職 松山大耕さん 「頭のなかを空っぽにすること」
特集 2	親子で作ろうクリスマスリース&お正月飾り
●平成 26 年 2 月号 (1 月 20 日発行)	
特集 1	豆とスパイスの店 楽天堂 店主 高島千晶さん 「子どもたちに希望ある未来を」

特集2	寒さなんてへっちゃら！！雪遊びと氷遊び
●同4月号（3月20日発行）	
特集1	ヨガインストラクター YOKO.T さん 「まずは、気づくこと そして続けること」
特集2	春です！！外ごはんに出かけよう

エ 外部出展

様々な方に、センターの事業等のPRや、環境のメッセージを伝えるため、地域のお祭りや環境イベント等へブース出展をしている。単にノベルティやパンフレットなどを配るだけではなく、スタッフや環境ボランティアがブース来場者と、会話や体験を通じて、環境について一緒に考えられるプログラムを実施している。また、子どもから大人まで使えて、センターのPRにもつながる新しいノベルティについて検討し、クリアファイル等を作成した。

平成25年度実績	出展数 37 件	ブース来場者 6,443 名
----------	----------	----------------

オ 京都・環境教育ミーティング

平成26年3月に「第10回京都・環境教育ミーティング」を開催し、実行委員を含めて340名の参加者があった。オープニングではESD-J副代表理事の池田満之氏をゲストに迎えてトークセッションを実施したほか、それに続く事例発表・セッションでは様々なテーマの発表が行われた。また、全体会や展示ブース出展、ティーコーナーなど様々な交流のしかけを通して、多くの参加者が新たな人や団体、取組みと出会い、つながる機会を生むことができた。

参加者 318 名	実行委員 21 名	事例 30 件，セッション 8 件
-----------	-----------	-------------------

3 受託事業

(1) エコ学区「学習会等支援事業」

京都市では、元学区を単位とする地域コミュニティにおけるエコ活動

を促進することにより、ライフスタイルの転換と増加傾向にある家庭部門での温室効果ガス排出量削減を地域ぐるみで効果的に実現するため、平成 27 年度までに京都市内全学区でエコ活動が行われることを目標に、「エコ学区」事業を実施している。

「エコ学区」事業に係る学習会等支援事業を受託し、地域活動にエコの視点を加え、各学区におけるエコ活動が円滑に進むよう、地域に地球温暖化対策をはじめとするエコロジーに関する知識やエコ活動に関する知恵等を提供した。

■エコ学区に係る相談窓口業務

京エコロジーセンター活動支援室に「エコ学区サポートセンター」を開設し、(平日 10~18 時) 地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応した。エコ学区として宣言した **163** 学区に対し、本格的に事業が動き始めた 10 月~3 月の 6 か月間、支援物品の企画・調達・配布、学習会等の実施などで地域ぐるみのエコ活動を促進した。学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチ (6 か月間で計 **187** 回・1 ヶ月あたり約 **31.1** 学区・1 学区平均 **2.28** 回) など、ニーズに合わせ迅速に対応した。

■学習会実施

計 **26** 回 (1 ヶ月あたり約 **4** 件) 実施した。(大人 **546** 名・子ども **393** 名参加)

学習会アンケート結果 (5 段階評価・221 件中平均値)

わかりやすい (**4.314**) / ためになった (**4.395**) / エコ活動を実践したい (**4.093**)

■省エネプログラムの実施促進

くらしの匠 (3 学区/合計 13 回集会実施/待賢学区・藤森学区・栗田学区),

うちエコ診断 (計 **206** 世帯実施) の実施につなげた。

■環境情報の発信

学習会実施時に、季刊誌「えこせん」を配布するとともに、京エコロジーセンターの PR を行った。学区でのセンター認知度はおよそ 1 割未満であるため、センター事業では届かない層へ環境情報の発信を行うことができた。

■支援物品等の企画・調達・配布

計 **158** 学区に、エコ活動支援物品を企画・調達・配布した。

■活動状況調査

平成 26 年 3 月に活動状況調査アンケートを配布。3 月末に回収、分析を行った。

(2) 暮らしの匠事業

暮らしの匠事業は、地域的なつながりのある住民同士が 15 世帯前後のグループをつくり、「暮らしの匠」と呼ばれる環境ボランティアとともに、各家庭の電気使用量の削減による CO2 排出量の削減を行うもので、グループで省エネに取り組むことで、互いに情報・意見交換をしながら、楽しく省エネを進めることができる事業である。

平成 25 年度は、京都市が所管する「エコ学区」事業の一環として、上京区の待賢学区、伏見区の藤森学区、東山区の栗田学区の 3 学区で実施し、それぞれ一世帯あたり平均 3.4%、2.2%、7.0%の電気使用量を削減することができた。さらには、本事業に参加された方が発信者となって近所の人に省エネ方法を広めるなど、学区の中で広く省エネの意識を高めることができた。

(3) JICA 国別研修「中国・環境教育」

平成 20 年より、独立行政法人国際協力機構(JICA)による「中国・循環型経済推進プロジェクト」に短期専門家派遣等で協力してきた一環として、国別研修「中国・環境教育」の研修業務を受託した(受託は 3 年目)。

平成 25 年 8 月の約 2 週間の期間、中国の環境政策や地方行政、環境教育施設運営に関わる行政職員・技術者への研修を企画・実施した。研修効果を高めるため、各研修員の課題分析や、課題の解決のためのヒントを研修から得られるよう、研修教材や細やかな対応ができる体制を整えて研修を行った。

平成 23 年度	4 名 (国家政府関係者 4 名)
平成 24 年度	6 名 (国家政府関係者 4 名, 地方政府関係者 2 名)
平成 25 年度	6 名 (国家政府関係者 3 名, 地方政府関係者 3 名)

(4) 電気自動車の普及・啓発のための充電設備管理業務

CO2 削減と低炭素社会の実現に向けて、京都市が進める電気自動車の普及促進の取組を踏まえ、環境保全活動の拠点施設としてのセンターが京都市から充電設備の管理業務を受託することを通じ、広く市民に電気自動車の活用を促す普及・啓発に取り組んでいる。まだ多くの市民から利用されるまでには至っていないが、引き続き利用促進に努める。

4 自主事業

(1) 森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

環境保全活動の推進を中心に据える法人への移行や、京都市における生物多様性戦略の策定等、地球温暖化と生活の関わりを中心捉えてきたこれまでのテーマ展開から、地球環境問題全体を捉えることが必須となっている。このため、林野庁の交付金事業の公募、自然体験の分野で経験を積んだ職員の存在、公益財団法人への移行後の自主事業展開等を考える中で、森林所有者の協力が得られたことから、新規事業として立ち上げた。

事業では、森林や林業、自然環境に関する環境学習プログラムを行うことにより、広い視野を持って環境に配慮した生活を実践できる人を増やすことを目的に、京都市左京区広河原の森林をフィールドとした森林環境教育及び、そのための森林整備を行う。林野庁による交付金は最長3年間受けることができ、事業の初年度として平成25年度は、利用可能な林分の踏査と対象地の設定、簡易測量、林分材積の推定、枯死木の除伐、択伐等を実施した。

Ⅲ 附属明細書

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 26 年 5 月

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

～一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（抄）～

第 34 条 事業報告

2 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。